

仙台市立郡山小学校で防災授業を行いました！

～まち探検や防災マップ作りの方法などを学ぶ～

日本損害保険協会東北支部(委員長：鈴木 恵子・東京海上日動火災保険株式会社 常務執行役員)では、5月23日(金)に仙台市立郡山小学校で、「ぼうさいマップをつくろう！～自分たちのまちを知るために～」と題した防災授業を行いました。

同校は、名取川と広瀬川に挟まれており、ハザードマップにおいても浸水地域になっています。そのため、水害リスクに対する意識が高く、毎年、4年生の総合学習の授業で防災について学び、防災マップを作成し、当協会主催の「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」(※)に応募いただいています。本授業は、今般、同校から防災マップの作り方も含む防災授業の依頼があったものです。

授業では、協会支部職員から、学校周辺の災害リスクについて国土地理院の「重ねるハザードマップ」を用いて確認するとともに、まち歩きの際のチェックポイントとして「大雨時にリスクの高い場所」や「災害時に役立つ設備・場所」について説明がありました。また、マップ作成のポイントとして、視覚的な工夫点のほか、自分たちで気づき考えた点を伝えることの重要性についてもアドバイスがありました。

今後、児童たちは、実際にまち歩きをし、遊水地や雨水ポンプ場などを見学したり行政職員から説明を聞いたりするなど、学びを深めていくとともに、まち歩き後には、防災マップを作成し、地域の祭りや防災訓練、町内会行事などにおいて披露することになっています。授業では、積極的に手を挙げて発言するなど、自らの地域について知ろうという児童たちの積極的な想いが伝わってきました。

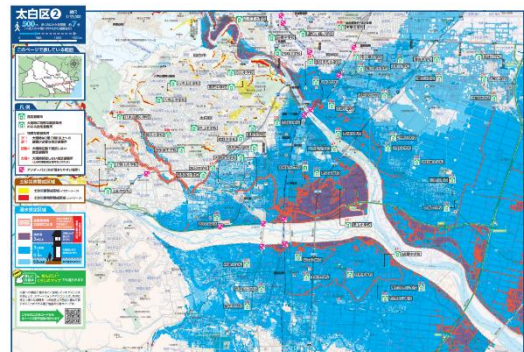
当支部では、このような授業も通じて、防災・減災の取組みを推進してまいります。

※ぼうさい探検隊マップコンクール

防災教育の取組みの一環として、子どもたちが楽しみながらまちにある防災・防犯・交通安全に関する施設や設備などを見て回り、身の回りの安全・安心を考えながらマップにまとめ発表する、実践的な安全教育プログラム。2004年度からマップコンクールを開催し、今回で22回目。自治体や行政等への提言により実際に危険箇所が改善された事例もあり、地域防災力向上の一助になっている。



授業の様子



学校周辺のハザードマップ
(仙台市 洪水・土砂災害ハザードマップ より)